

第1回技術検討会 質問・指摘事項と回答

番号	質問・指摘		回答	備考
	発言者	質問・指摘		
1	澤田委員	【事業効果の発現状況】 戸当たり借入面積が平成12年から令和2年の間に2.8倍増加したことについて、どういうことを意味しているのか教えてほしい。	平成12年当時は個別農家が主な経営体であったと推測されるが、その後、営農組合、農業法人等の担い手が発足し、農地借入を増やすことで、規模拡大、農地集積を進めていること、農業者の高齢化の進行により耕作が困難になった農地の経営を受継ぐ等、本地域においても農地集積が進んでいることを表している。 ◇資料掲載ページ：事後評価基礎資料 P21	
2	西脇委員	施設竣工後、環境面の調査を行っているか。	以下の施設について、事業実施中にモニタリング調査を実施している。 (1) 栃山頭首工(魚道) 施工竣工後も、魚類の遡上を確認した。 (2) 谷田大池(タコノアシ) 移植後も、タコノアシの保全を確認した。 (3) 大胡桃池(ニホンアカガエル) 這い上がりスロープ設置後も、ニホンアカガエルの保全を確認した。 ◇資料掲載ページ：事後評価基礎資料 P85～87	
3	石井委員	地区内で多面的機能支払交付金を活用し活動している45組織の受益面積に対する面積カバー率を教えてください。	各組織の取組面積の合計は約2,930haであり、受益面積に対するカバー率は約41.4%。→静岡県平均(26%)と比較すると高い。 本地域は改良区が主体となって活発に活動していると聞いているので今後も活かせるよう市町と改良区との連携が増えるよう推進したい。 ◇資料掲載ページ：事後評価基礎資料 P75～76	
4	平井委員	地元農産物を提供するレストランについて教えてください。	本地域内で地元農産物を提供するレストランについて、一覧表及び位置図基礎資料案に記載した。 ◇資料掲載ページ：事後評価基礎資料 P80	
5	堀田委員	農業の個別化、消費者のニーズが多様化している中で、産地形成によらない、個別の農業生産や農業経営行われている、そうしたニーズに今の用水のシステムが対応できているのか、対応しきれないニーズがある場合には対応も必要ではないか。評価結果案のなかに盛り込んでもらいたい。	新規就農者が農業用水を利用し、新たな栽培方法を取り入れる事例等が出てきているが、現状の用水システムで対応ができている状況。 今後、農業ニーズの変化があれば対応していく必要がある旨を評価結果に追加した。 ◇資料掲載ページ：事後評価基礎資料 P92	
6	石井委員	営農形態の変化による用水需要の変化に対応し、安定的な用水供給がなされ、適正な水配分が困難な状況になっていることを解消していることがわかる内容を評価結果に記載いただきたい。	以下の内容を評価基礎資料に記載した。 ① 営農形態の変化等による用水需要の変化への対応 水稲作付率の低下、水稲の早生品種の作付け増による作期の前倒し等により用水需要が変化。 →水利権の用水計画における代かき期の始期を5月8日から4月11日に前倒し。 ② 還元水の減少及びため池減少等による用水不足への対応 周辺地域の開発、水稲作付率の低下による還元水の減少、ため池の荒廃などに起因し用水不足が発生。 →既設ため池の再整備(3か所)、新設の調整池(2か所)の整備を行実施。 ◇資料掲載ページ：事後評価基礎資料 P51～52	